

一般社団法人 ダイアログ・ジャパン・ソサエティ

平成 29 年度 事業報告書

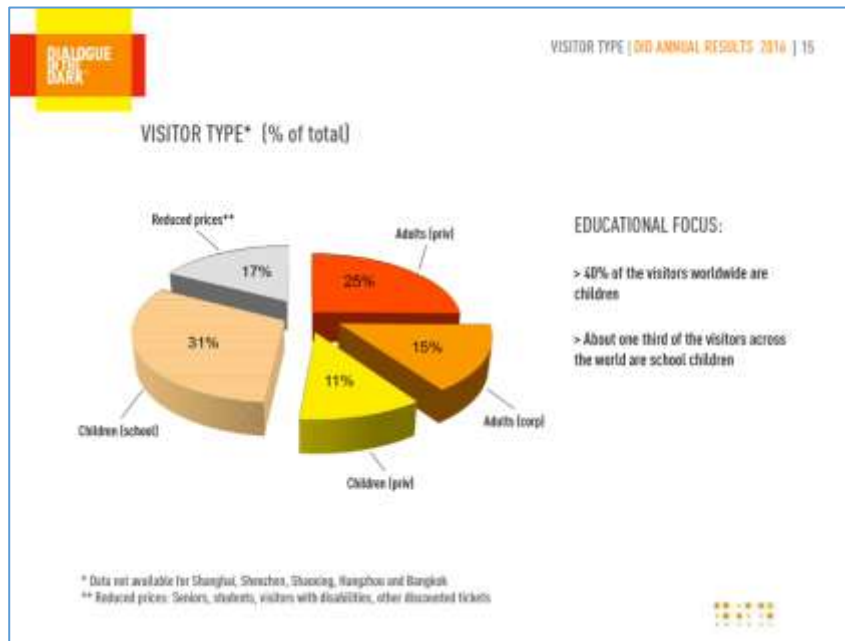
(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

2018 . 06

1. 普及啓蒙活動

(1) オリンピック・パラリンピック教育の一環として渋谷区の小中学生の体験

ヨーロッパでは学校の課外授業で多くの生徒がダイアログ・イン・ザ・ダークを体験している。2016年度の世界のDID参加者の42%が子ども、そのうち4分の3が学校単位での利用である。



日本においても学校教育におけるDIDの普及を進めるべく、2016年度から佐賀県との委託協働事業（実施は佐賀の現地NPOダイアログ・ジャパン・ソサエティ）、渋谷区のオリンピック・パラリンピック教育で学校単位の体験学習導入を進めている。

今年度は、前年度に引き続き渋谷区の小中学校のオリンピック・パラリンピック教育の体験授業を実施した。

【体験学習のねらい】

渋谷区のパラリンピック教育推進事業の一環として暗闇体験や視覚障がい者との関わりを通して人間の持つ多様性を理解するための一助とすること。

【体験日時及び参加人数】

6月8日・常磐松小学校4年生26名（引率教員2名）

6月13日・代々木山谷小学校4年生65名（引率教員3名）

6月26日・原宿外苑前中学校1年生89名（引率教員5名）

7月4日・千駄谷小学校3年生45名（引率教員3名）

→4校で合計225名の生徒・児童が体験

【体験内容】

視覚障害者のスタッフ（アテンド）を交えて、班ごとに以下を体験

- ・暗闇体験…キャッチボール（音の出るボール使用）など
- ・「対話」の時間…各班を担当するアテンドスタッフ交えて対話
- ・横断歩道のワーク… ペアで1名が目を閉じ1名が案内をして横断歩道を渡る



【体験結果（アンケートを実施）】

- ・88%の児童（小学生）が「障がい」についての考え方が「かわった」と回答。
- ・78%の児童（小学生）がパラリンピックについての考え方が「かわった」と回答。

(2) 東京都福祉局 SOCIAL FES での DID プログラム提供

2016 年度に引き続き東京都福祉局と協働して SOCIAL FES でダイアログ・イン・ザ・ダークを開催した。

【TOKYO SOCIAL FES 2017】

～スタイリッシュで最先端！ あなたの知らない福祉の世界を体験しよう！～
 広く都民の皆様には福祉の仕事の魅力を知らせていただくため、東京都が開催する「TOKYO SCIAL FES 2017」の体験プログラムとして開催。

開催日時：2017年11月19日

会場：渋谷ヒカリエ 9階 ヒカリエホール

参加人数：135名



(3) 文京区第13回文京地域支援フォーラム「ダイアログ・イン・ザ・ダーク ショーケース in 文京」

障がいのある人もない人も共に安心して生活できる共生社会の実現を図るための取り

組みとして始まった文京地域支援フォーラム（2012年より開催）のプログラムとして開催をした。

日時：2017年11月16、17、18日

場所：文京シビックホール

参加：16日は職員・関係者研修（100名）、17、18日は一般体験（186名）

内容：文京区特別コンテンツ（60分）

(4) 熊本県「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進事業

文科省は、障害者の権利に関する条約（平成26年1月批准）や障害者基本法（平成23年8月5日公布・施行）の規定等を踏まえ、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を契機として、障害のある子供と障害のない子供たちの交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進事業を実施している。

今年度、本事業の一環として熊本県の盲学校と県立高校の交流及び共同学習の場として講演会及びダイアログ・イン・ザ・ダークの出張開催を実施した。

【講演会】

日時：2017年11月30日

場所：熊本県立第二高等学校 武道場

講師：志村季世恵（一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティ代表理事）

志村真介（同団体理事）

瀬戸洋平（ダイアログ・イン・ザ・ダーク・アテンド）

参加：熊本県立第二高等学校1年生約410名及び教職員、熊本県立盲学校職員

内容：「暗闇から世界が変わる～ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパンの挑戦」というテーマで講演。「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」プロジェクトの成り立ちや、視覚障害者のアテンドスタッフが感じる目を使わない世界の紹介、生徒との質疑応答。多様性に富んだ未来の共生社会について考える時間を共有した。

【ダイアログ・イン・ザ・ダーク特別プログラム】

日時：2017年12月24-26日

場所：熊本県立盲学校 会議室

参加：178名（学生79名、一般99名）



(5) 内閣官房オリンピック・パラリンピック推進本部事務局委託事業「オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査」に係る試行プロジェクト

【オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査】

オリパラ基本方針（2015年11月閣議決定）推進の重点分野である「文化を通じた盛り上げ」に関する試行プロジェクトを実施し、その効果・改善点を調査・分析することで、オリパラムーブメントを醸成し、基本方針を推進する事業。

JETRO が内閣官房の委託を受け、日本文化の魅力を世界に発信し地域活性化につなげる試行プロジェクトを公募している。

当団体は2017年度と同プロジェクトに公募申請し、以下の事業が採択された。

【ダイアログ・イン・ザ・ダーク show case for 2020 Tokyo 暗闇で楽しむ日本文化】

暗闇のソーシャルエンターテイメント「ダイアログ・イン・ザ・ダーク (DID)」を日本文化や伝統工芸品の魅力を体験する内容にアレンジし、視覚以外の感覚（聴覚、味覚、触覚、嗅覚等）によって日本文化のエッセンスをより深く体験できる DID 特別プログラムを実施した。

内容：14名のグループで暗闇に入場し、

- ①日本の四季折々の伝統・文化行事を音響効果で体験
- ②野点体験（生花、和菓子、抹茶、器を視覚以外の感覚で堪能する）
- ③書道体験（墨を摺り、新年の抱負を表す文字を色紙に書く）
- ④対話（畳の上のこたつに集って団欒、対話、カルタ遊びなど）

のコンテンツを体験した。

参加：310名（うち英語運営ユニット参加者16名、車椅子利用2名）



体験後のアンケートにおいて、回答者の85%が2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に伴う文化イベントとして、「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」を開催することは有意義であるとの回答を得られた。

また、内閣官房の調査報告書においても、「障害の有無等にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う「心のバリアフリー」の推進は、オリパラ基本方針にも掲げられている。障害者が積極的に参加した「ダイアログ・イン・ザ・ダーク show case for2020 Tokyo 暗闇で楽しむ日本文化」は、成熟社会にふさわしい、次世代に誇れるレガシーを創り出したともいえる。」「障害を価値に転換する、心のバリアフリーの浸透に向けた非常に優れた取組と言える」と評価された。

(6) 北区オリパラ学び合いフェスタ・来た KITA オリパラプロジェクト「ダイアログ・イン・ザ・ダーク ショーケース」

東京都北区のオリンピック・パラリンピック推進事業の一環として、特別プログラムを開催した。

日時：2018年2月10日（土）、11日（日）

会場：赤羽会館4階 小ホール

対象：区内在住、在勤、在学の小学校1年生以上の方

参加：128名

内容：2018北区オリジナルプログラム（60分）

(7) 「100人のイノベーターが描く十勝ドリームマップ会議2018」におけるダイアログ・イン・ザ・ダーク特別プログラム

全国の革新的な経営者と、新規事業に挑戦する十勝の人材が触発し合いながら事業創発の可能性を探るため、北海道から沖縄まで日本全国の“イノベーター”として招待された100人余りが一堂に会する「十勝ドリームマップ会議2018」（帯広市、とち財

団、フードバレーとから推進協議会による実行委員会が主催)において、ダイアログ・イン・ザ・ダーク特別プログラムを開催した。

日時：2018年3月4日

会場：帯広市 とから館

参加：約100名

2. 調査研究事業（社会的インパクト調査）

社会的事業を担う民間セクターのアカウンタビリティとして、適切な社会インパクト評価を行うことが求められる時代において、「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」、「ダイアログ・ウィズ・タイム」（2017年3月に1日開催）、「ダイアログ・イン・サイレンス」（2017年8月に開催）の各プログラムについて、一律の金銭換価が困難な「人との繋がりに」、「信頼」、「障害者理解」、「多様性の受容」などの効果測定、社会的価値の評価の理論と実践について調査研究を行った。

従前から実施していた企業研修の効果測定（Emotional Intelligence Quotient・情動知能指数など）に加えて、

- ・渋谷区のオリ・パラ教育についての効果測定（アンケート）
 - ・DID外苑前会場の一般参加者を対象にした、EQ、ソーシャルキャピタル、自尊感情等についての指標の変化の効果測定
 - ・佐賀の小学生を対象にした、EQ、ソーシャルキャピタル、自尊感情等についての効果測定
 - ・文京区第13回文京地域支援フォーラム「ダイアログ・イン・ザ・ダーク ショーケース in 文京」の参加者（関係者・一般）を対象にした、ソーシャルキャピタル、障害に対する意識の変化、多様性に対する意識の変化についての効果測定
 - ・熊本県「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進事業の参加者を対象にした、ソーシャルキャピタル、障害に対する意識の変化、多様性に対する意識の変化についての効果測定
 - ・内閣官房オリンピック・パラリンピック推進本部事務局委託事業「オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査」に係る試行プロジェクトの参加者を対象にした、ソーシャルキャピタル、EQ等についての効果測定
 - ・企業研修利用者を対象に、ストレス軽減の効果測定
- を実施した。効果測定の結果については、別添報告書のとおり。

3. ダイアログ・イン・サイレンス開催

別紙報告書のとおり

4. 事務所の移転及び Tokyo Diversity Lab. の開設

2017年8月末をもって外苑前会場を閉鎖し、同年9月から、東京浅草橋に事務所を移転し、新たな拠点として「Tokyo Diversity Lab.」を開設した。

移転にあたって JAPANGIVING（株式会社 LIFULL Social Funding 運営）のクラウドファンディングキャンペーン「8.31.ダイアログ・イン・ザ・ダーク東京クローズ。私たちの新たな出発を応援ください！」を実施し、移転費用等の支援を呼びかけた。約40日間のキャンペーン期間中に422名、8,597,830円（目標金額1500万円の57%）のご支援をいただいた。



「Tokyo Diversity Lab.」においては、以下の取組みを行っている。

■企業、団体の方向け

暗闇でのビジネスワークショップ

■アテンドの豊かな感性を活かした商品・サービス開発やコンサル業務

■【対話型ミュージアム（Museum of Diversity and Inclusion）】開設準備室

ダイアログ・イン・ザ・ダークのほか、ダイアログ・イン・サイレンス、ダイアログ・ウィズ・タイムも合わせた対話型ミュージアムを2020年に開設するための準備室を設置し、ハード（会場）、ソフト（人材育成、コンテンツ開発）両面について具体的な企画立案を開始している。

以上